

結晶母

結晶母(けっしょうも)2003年4月号

誌上平和セミナー:「クラスター爆弾」

報告:設立1周年記念トーク&コンサートほか

「結晶母」

結晶ができる時、最初に生れる結晶。

それが結晶母。

結晶母の周りに同じ形をした元素が集まって、

ひとつの大きな結晶をつくる。

ひとつひとつの結晶は小さくても、

結晶母を中心に集まった大きな結晶のネットワークは

強く、たくましい!

そんな大事な結晶母の役割を

地球に住むひとりひとりが果たせたら…。

そんな願いを込めて、名づけました。

テラ・ルネッサンス設立目的『世界平和の実現』

※世界平和…誰もが安心して生活できる社会

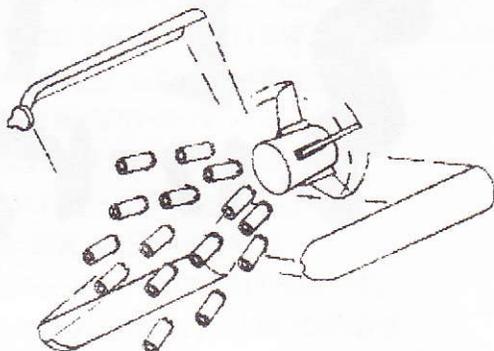
当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活(簡素な生活)を実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する

「クラスター爆弾」

テラ・ルネッサンス

●クラスター爆弾(集束爆弾)とは

- ・高空から子爆弾約 200 個が詰まった親爆弾(容器)を投下
- ・上空 100m~1000m で親爆弾(容器)が 2 つに割れて、広範囲に子爆弾を散布
- ・子爆弾内部におさめた鉄片が 300 ぐらいに飛び散って、広範囲の車両を破壊、人々を殺傷



CBU-87/B Combined Effects Munitions (CEM)

●クラスター爆弾の問題点…本質的に無差別兵器

【空間における無差別】

- ・広範囲に散布されるため、特定の標的以外の人間を殺傷してしまう

【時間における無差別】

- ・不発弾が「地雷」化し、長い年月にわたり、その場に残り続ける
例)アンゴラ 少女がきらきらするもので遊んでいて、それが爆発した事例
⇒時間を経ることにより、クラスター爆弾は不安定になり、危険を増す
⇒クラスター爆弾の不発弾が、いつ爆発するかわからない「地雷」と同じ効果を持つ

●クラスター爆弾の使用例

◇ラオス

- ・1964年~1973年の間に 58 万回以上の空爆を実施(アメリカ軍)
- ・230 万トンの爆弾を使用、平均で爆撃機 1 機分の爆薬が 8 分毎に落とされていた計算
- ・BLU-26(クラスター子爆弾)が 400 万個も埋まっている(不発率 30%で換算)

◇イラク(湾岸戦争時)

- ・湾岸戦争時に使用されたクラスター爆弾の不発率=10~20%
※許容範囲の 3~5%を大幅に上回る。会計検査院は 80 年代よりクラスター爆弾の子爆弾製造過程での品質管理の問題を指摘
- ・クラスター爆弾の不発弾が湾岸戦争での米軍兵士の死因の 10%を占める

◇旧ユーゴスラビア

- ・CBU-87型クラスター爆弾(子爆弾 202 個)を約 1,100 個投下(アメリカ軍)
- ・RBL-755 型クラスター爆弾(子爆弾 147 個)を約 500 個投下(イギリス軍)
→5%の不発率で計算すると、NATO 軍は約 15,000 個もの不発弾を残したことになる
- ・約 1,600 個のクラスター爆弾は全兵器使用量のわずか 6%
- ・クラスター爆弾によって死亡した一般市民は全体の 15%~16%(90 人~150 人)

◇アフガニスタン

- ・1228 発のクラスター爆弾が投下され、24 万 8,000 個の子爆弾がばらまかれた
- ・12,000 個以上の子爆弾が不発弾として残存(5%の不発率として推定)

●クラスター爆弾の規制に向けて

・「特定通常兵器使用禁止・制限条約」の強化

※特定通常兵器使用禁止・制限条約＝過度の障害や無差別に障害を与える兵器を禁止・制限する国際的取り決め。条約といくつかの付属議定書で構成。

【具体的には…条約に 5 番目の新しい付属議定書をつくる】

- ①爆弾に自己破壊装置の取り付けを義務づけて、不発弾が残らないようにする
- ②爆弾を使った国に除去責任を義務付ける など

●クラスター爆弾規制への課題

・最終的には軍事大国のモラルに期待するところが大きい

※地雷…安価なため、途上国のゲリラ勢力も多く使用

※クラスター爆弾…精密で高価な兵器のため、特に米国の大規模な軍事作戦で使用

⇒実際に数多くの場面で使用してきたアメリカの努力が必要

【現状(アメリカ側の意見)】

「普通の爆弾に比べて、クラスター爆弾は効率よく(破壊という)目標を達成できる。戦闘を短時間で終わらせ一般人の巻き添え被害も減らせる。問題は(目標に確実に命中するなどの)信頼性だ」⇒命中精度を高めて、不発弾の発生を低く抑えることで対応

●私たちにできること

・クラスター爆弾について学習する

【参考 URL】

地雷廃絶日本キャンペーン <http://www.jca.apc.org/banmines/>

アメリカ科学者協会 <http://www.fas.org/man/dod-101/sys/dumb/index.html>

・クラスター爆弾の非人道性を多くに人々に伝える

講演会、学習会の開催、チラシの配布など

⇒テラ・ルネッサンス事務局にご相談下さい！講師派遣など行います！

・日本がクラスター爆弾を率先して廃棄するように意思表示

※首相官邸、防衛庁などにクラスター爆弾廃棄、クラスター爆弾規制への取り組みを誓願

首相官邸 FAX 03-3581-3883 Mail <http://www.kantei.go.jp/jp/forms/goiken.html>

防衛庁 FAX 03-5229-2134 Mail info@jda.go.jp

※日本が保有するクラスター爆弾の廃棄を、地元選出の地方議員、国会議員に手紙やメールで求める

【参考文献】

- 1、「Drop Today, Kill Tomorrow: Cluster Munitions as Inhumane and Indiscriminate Weapons」(「今日落とし、明日殺す」)メノナイト中央委員会 1997年12月)
- 2、JCBL ニュースレター第12号 地雷廃絶日本キャンペーン 2000年3月
- 3、アメリカ科学者協会ホームページ

「テラ・ルネッサンスの今後」

代表 鬼丸 昌也

●テラ・ルネッサンス設立の願い

テラ・ルネッサンスを設立して約 1 年半が経とうとしています。その間、常に設立目的である「世界平和の実現」を目指して歩んできました。テラ・ルネッサンスの今後を考える上で、設立当初の思いをまず皆様と分かちあいたいと思い、テラ・ルネッサンスを設立した際に寄稿した文章を掲載します。荒削りな部分が多いですが、設立までの私の思いの変化がよく分かります。

ひとりから始まる Never Give Up! (「戦わない平和運動」を目指します)

2001.11

今年 3 月にカンボジアへ行き、地雷撤去の現場を歩いてきました。人々の生活の中にある地雷。毎年世界で 240 万個増え、25,000 人を傷つけている地雷。絶望的になりました。そしてポルポト時代の虐殺現場、キリングフィールド。たくさんの赤ん坊が木に叩きつけられて殺されました。銃弾の節約のために、地雷や虐殺の事実は僕をショックで包みました。「人間はどこまで残虐になれるのだろう・・・」一度は全てをあきらめました。人間に残虐性がある限り、心に地雷が残っている限り、人はまた地雷を埋め続けるでしょう。僕ひとりががんばっても何も変わらない世界の現状、そして未来は・・・。そんな時に義足のランナー、クリス・ムーンに出会い、彼の言葉に勇気づけられました。「変えられないものなんてない。なんだって可能だ！僕達はできる限りのことをやればいい！」彼はその言葉通り、地雷廃絶を願って今も世界のどこかで走り続けています。

帰国後「自分にできることは何か？」を考えました。結論は「地雷から見える世界の現状を伝えたい！そして本当に大切なものは何か気付いて欲しい」と大阪・高槻で講演会をスタートし、熊本、宮崎、鹿児島では顔も名前も知らない人たちが講演の場を整えてくれました。

ある中学生の女の子が講演を聴いて、とても感動してくれました。その子は学校の授業で、地雷のことをみんなに話したそうです。それが自分にできることだと信じて・・・。彼女は先日の講演会に再び来てくれました。手には学校で集めた 7,050 円の募金。「本当に「ショックでした。でもあきらめたら何も変わらない。だから自分にできることをやろうと思いました」涙を流しながら彼女はそう話してくれました。

クリス、ひとりの少女、ダイアナ元妃・・・。地雷廃絶に関わった人々に共通するものがあります。それは「Never Give Up! Dream Come True! (あきらめないで！夢はきっとかなうから!)」この言葉、僕には未来の子どもたちからのメッセージに聴こえます。僕はこれからも伝え続けます。これが子どもたちへの僕の回答です。同時に世界平和への具体的活動にも取り組みます。そのために「テラ・ルネッサンス」という団体を創りました。地球まるごとのルネッサンス(復興活動)です。争いよりも刺激的な『平和創造』という芸術で世界を変えていくのです。

「Never Give Up! Dream Come True! (あきらめないで！夢はきっとかなうから)」

●地雷分野での活動・・・テラ・ルネッサンスの現状

テラ・ルネッサンスのメイン事業の地雷廃絶キャンペーンでは確実な発展を遂げています。

- ・HALO TRUST、MAG への資金提供
- ・地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)に団体加盟、と同時に、地域コーディネーター(関西地域)に就任
- ・地雷完全廃棄公開式典(2003年2月)、プノンペン地域セミナー(2003年3月)にJCBLの一員として参加
- ・地雷に関するセミナー(講演)、ワークショップの実施
- ・地雷廃絶のためのチャリティーイベントの開催
- ・2回のカンボジアスタディツアー、会員対象のワークショップ(合宿研修)の実施など

●さらに動き始めた「テラ・ルネッサンス」・・・新プロジェクトの紹介**・総合学習プロジェクト**

テラ・ルネッサンスが様々な課題に取り組む中で得た知識、体験を、これからの時代を担う子どもたちに伝え、新しい時代を切り開く力を養ってほしいという願いから、総合学習に対応できる学習プログラムを作成しています。特に「地雷」を切り口に、南北格差、紛争の構造をどのように子どもたちに考えてもらうのか、様々な教育事例や専門家のアドバイスをもとに検討を重ねています。

・国際チーム

地雷と同様に、テラ・ルネッサンスが特に取り組む課題として、「小型武器」、「子ども兵」を挙げています。この2つの分野での取り組みを模索する中で、この分野における先駆的な NGO との連携が必要だと判断しました。質、量ともに海外 NGO が情報、活動実績を蓄積しています。まずは IANSA(国際小型武器行動ネットワーク)、CSC(子ども兵を禁止する国際ネットワーク)に加盟、「小型武器」、「子ども兵」に関する情報を加盟団体より提供してもらい、和訳の上、結晶母やインターネット、講演で公開できる体制を整えます。日本語の情報を増やし、公開することで、市民の関心を高める狙いがあります。その担当組織として「国際チーム」を編成しました。現在、学生、社会人を中心に各 NGO との連絡、交渉などを担っています。

・企業との提携プロジェクト

社会の大切な構成要素である企業との提携が、社会を変えていく上でとても重要です。消費者に環境に優しい商品を提供し、軍産関連企業の製品は提供しないなど、企業の持つ可能性はとて大きいものがあります。

現在、提携プロジェクトの第1弾として、各企業、店舗に「地雷廃絶のための募金箱」を設置する旨、複数の企業の担当者や打ち合わせを行っています。各企業、店舗から寄せられた募金は、テラ・ルネッサンスを通じて地雷除去などに活用され、それぞれ企業別の報告書をテラ・ルネッサンスから提出いたします。また、従業員、消費者向けの報告会、セミナーの開催をサポートすることにより、社会貢献事業の消費者への効果的な PR(情報還元)が可能となります。このことにより企業、消費者共に社会への関心が高まることで、世界平和に向けて、足元からの1歩を踏み出せると考えています。

企業プロジェクトの詳しい資料がございますので、事務局までお問い合わせ下さい ⇒TEL&FAX 075-645-1802

・21世紀PEACE講座

紛争を多角的に考えるきっかけとして、4月から12月までの連続講座を京都市内で開催しています。「小型武器と子ども兵」など、テラ・ルネッサンスに関わるテーマを通じて、私たちの活動も理解して頂ければと考えています。

※詳細は同封のチラシをご覧ください。

●テラ・ルネッサンスの今後(1年先のビジョン)

◆世界平和実現のために常に先駆的な活動ができる組織を目指します!

◇活動面

・地雷除去支援、被害者支援の拡大

今後も地雷除去支援、被害者支援が、テラ・ルネッサンスの主要事業であることには、代わりありません。

現在はカンボジアでの地雷除去(HALO TRUST)を支援していますが、カンボジアと同様に、今年からはスリランカでの地雷除去、被害者支援、ならびに地雷埋設地域への復興支援に関しても、なんらかの事業を実施できるように検討を重ねています。

今までの地雷廃絶キャンペーンの中で培ってきたネットワークと支援者の皆様とのつながりを大切に、地雷のないアジアを目指し、カンボジア、スリランカでの事業を実施いたします。

・マイン・フリー・アジアの実現へ

地雷のないアジアを目指し、アジアの一員であり、地雷廃絶を終えた日本が果たす役割は大きいと考えます。地雷廃絶国際キャンペーン(ICBL)、地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)と連携して、アジアでの廃絶キャンペーンの伸展を図ります。特にアジアの若者が、地雷問題に関してネットワークを組んで取り組めるようなイベント、キャンペーンを検討しています。

・小型武器、子ども兵の調査、研究部門の充実

地雷と並ぶテラ・ルネッサンスの取り扱う課題である「小型武器」、「子ども兵」分野を調査、研究する機関としての国際チームをさらに強化、発展させます。

・平和教育活動の展開

講演、ワークショップなどの平和教育事業は、テラ・ルネッサンスの特に重要な事業です。講演を通じ、支援の輪が広がり、活動はさらに強固なものになります。今後、「地雷畑で見た夢」(地雷)以外の講演を実施、ならびにワークショップ(会員対象)を全国各地で開催し、よりテラ・ルネッサンスの目的、理念、活動が体験的に理解できるように努めてまいります。

◇組織面

・ワーキンググループ制度の活用

会員3名以上で構成できるワーキンググループ制度を活用し、各地域にテラ・ルネッサンスの目的、理念、活動に賛同する方のグループ化を進めます。総合学習プロジェクト、企業プロジェクトなど、地域に密着した平和運動を実施する上において、地域でのテラ・ルネッサンス活動の中心となるグループが必要です。神奈川県での地域グループ誕生を皮切りに、今後も各地域でのグループ結成を事務局がサポートしていきます。

・財政基盤の安定化

地雷除去支援などの支援事業は寄付や募金で、各種キャンペーン費用、事務局経費は皆様の会費によって賄われています。活動の規模が拡大するにつれて、支出も比例して大きくなります。財政基盤を安定化するために、特に会員の増強と更新率のアップを会員サービスと活動の充実を通じて図ってまいります。

●秋貞早苗さん(川崎市)のイラク報告

テラ・ルネッサンス会員の秋貞早苗さんが、イラク、シリア、ヨルダンに滞在し、現地の様子を自身の五感を使って体験してきました。現地から送られてきたメールの一部を掲載いたします。(一部割愛)

今後、イラク市民への医薬品を送るための募金活動などを企画される予定です。

私は13日の夜日本を発ちました。16日の朝5:00にバクダットに入りました。外国人が多く滞在している「パレスチナホテル」は、窓ガラスにはほとんど×印にガムテープが貼ってあります。街が爆撃に備えていることを到着したとたんに強く感じ、こわかった。

お昼頃から街に出てみた。街のあちこちに土壕が積んであり、それも戦いへの備えである。大きな力に抗えない恐怖心が私の中にある。しかし、しかし、街の人たちは、大人も子どもも本当にHAPPY。

私がカメラを向けると撮ってもらおうと、小さな男の子が駆け寄ってきた。コンクリートの上でころんでしまった。涙をポロポロ出してとても痛そう…。砂ぼこりまみれになってしまった。駆け寄った私が、ぼこりを払ってあげ、再びカメラのレンズを向けると、もう泣き止んでニコリほほ笑む男の子…。この男の子がこれから恐いめに合うこと、私は許せない。信じられない。

夜、国連査察団がバクダットを出たという情報が入り、爆撃が避けられない場合、開始前にイラクを出る意志のある人は、もう出発の方がよいという。私にとって17時間だけのイラク。短すぎるけれど私は出国することを選んだ。

今、私はイラクの隣国シリアにいる。ここで何ができるだろう。精一杯祈ることと、私の体験したことを日本にいるみなさんに伝えること。日本にいるみなさん、いっしょに祈り、何か行動を起こしてください。

●イラクでの実話が物語になりました！

2月9日に10代、20代の若者で、「もしも君が本当に望むなら…」という講演会を開催しました。講師が本会代表の鬼丸と、ネットワーク地球村スタッフの小川真吾さんです。小川さんが1月にイラクを訪問した際に出会った少女、ハニンちゃんとの実話をもとに、講演会スタッフが数日で物語をつくりました。今、インターネットを通じて、全国各地に広がっています。

/-/

友人が先日イラクに行きました。そこで一人の少女に出会いました。

これは、そのとき友人とその少女が交わした約束を元にした物語です。

この物語はフィクションです。

けれど友人とその少女、ハニンちゃんのやりとり、交わした約束は、実際あったことです。

ハニンちゃんは戦争が起こらないことを信じています。

私はその彼女の思いを実現する手助けをしたいのです。

彼女が友人と交わした約束をかなえるお手伝いをしたいのです。

ハニンちゃんという少女がいることを世界に伝えたいのです。

※物語はこちらでお読みください↓

【かるらおふいす】 <http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Screen/8341/story.html>

●設立1周年記念トーク&コンサート

2001年10月に設立したテラ・ルネッサンスも1周年を迎え、その記念行事としてトーク&コンサートを実施しました。

第1部のトークセッションでは、代表鬼丸がコーディネーターを務め、小川真吾さん(ネットワーク地球村スタッフ)、最相博子さん(地雷廃絶と被害者支援の会・熊本代表)、吉村誠司さん(元・神戸元気村副代表)に、それぞれ活動を始めたきっかけ、活動のなかでの思い出などを語って頂きました。



小川さんと最相さん

第2部は京都文教女子高校吹奏楽部の演奏で幕が開きました。2002年9月16日に京都市内で開催したチャリティーイベントの際、同校吹奏楽部に「もしも地雷がなかったなら」を演奏して頂きました。そのことがきっかけとなり、今回のコンサートでは、「もしも地雷がなかったなら」の作曲者であるウォン・ウィン・ツァンさんとのジョイントが実現しました。

ウォンさんのソロに引き続き、「勇気と祈り」をジョイント演奏。ウォンさんの美しいピアノの音色に、高校生たちの奏でる音がひとつひとつ重なって、とても感動的でした。



松原ご夫妻とピースメーカー

そして、松原廣始・誕嘉胡夫妻とピースメーカーの登場です。松原ご夫妻は立命館大学国際平和博物館で、特攻隊の方が残した文章に惹かれ、ひとつの曲をつくられました。その曲をインドのシタール奏者ピースメーカー(井尻夫妻)と共に力強く演奏くださいました。



IKUKOさんと吹奏楽部の皆さん

最後は「もしも地雷がなかったなら」の演奏です。「もしも地雷がなかったなら」はボスニア・ヘルツェゴヴィナに住むハセダさん(当時13歳)が綴った詩に、ウォンさんが感動され、曲を付けたと言う作品です。

ボーカルのIKUKOさんにもご出演頂き、ウォンさん、IKUKOさん、そして吹奏楽部の生徒さんたちとひとつになって演奏が始まります。

IKUKOさんの透き通るような声に、ウォンさんの暖かな音色に、高校生達のひたむきな音楽に、来場いただいた皆様は耳と心を傾けていらっしゃいました。

本当に素敵な時間をたくさんの方と共有できたと思います。音楽はあらゆる障害を超え、人々の心に何かを伝えてくれる...そんな大切なことをあらためて実感した記念イベントでした。



●テラ・ルネッサンスのロゴが決定しました！

テラ・ルネッサンスの公式ロゴマークが決定しました。事務局スタッフの春山が作成したロゴマークです。今後、様々な機会に皆様の目に触れることでしょう。



●初の地域グループ誕生(神奈川県)

テラ・ルネッサンスに初めての地域グループが結成されました。「テラ・ルネッサンス横須賀」(代表:大蔵眞美子さん)、「テラ・ルネッサンス鎌倉」(代表:瀧本利子さん)の2グループです。代表の講演を聞かれて、自分たちでできることにとりくみたいと、活動を始められました。2003年は神奈川県での連続平和セミナー(講演会)を企画されています。ぜひお近くの方は足をお運び下さい。

神奈川平和セミナー 連続講座第1回

「地雷畑で見た夢 ～地雷廃絶を目指して～」

日時:6月23日(月)14:00 開場 14:30～16:00

場所:鎌倉市立生涯学習センター集會室

参加費:¥500

●地雷廃絶完了セレモニーに参加(滋賀県)

2月8日に滋賀県新旭町の航空自衛隊基地内で行われた「地雷廃絶完了セレモニー」に、JCBL(地雷廃絶日本キャンペーン)の一員として参加しました。

対人地雷全面禁止条約に署名、批准した国は、自国内にある地雷をすべて廃棄しなければなりません。日本は小淵政権時代から複数の民間企業に委託し、爆破作業を行ってきました。そして、2003年2月8日に100万個の地雷が全て廃棄され、その記念式典には小泉総理も参加。物々しい警備の中、式典は執行されま

した。最後の地雷信管が水中爆破されたとき、どこからともなく拍手が起こります。私はそのとき、国内の地雷廃絶キャンペーンの大きな節目を感じました。今後は対人地雷全面禁止条約の普遍化、特に地雷のないアジアを目指して、地雷の廃棄を終えた日本が官民連携の上で、新たな活動を模索する時だと強く感じています。

式典後は、地元、新旭町主催で「子どもサミット」が開催され、地雷問題に取り組む全国各地の小・中学生が参加。調べ学習、募金など、それぞれの取り組みを発表されました。友人の柴田知佐さん(当時;愛知教育大付属岡崎中学校3年)も発表。子どもたちの素晴らしい活動に、明るい未来を垣間見た気がします。(鬼丸)

●街頭募金、頑張ってマース(京都府)

2月2日と4月6日の2度に渡って、四条河原町高島屋前で街頭募金を行ないました。

初めての街頭募金は、3人で街頭に立って、募金箱を持ちながら道行く人びとに「世界には地雷がたくさん埋まっていること」、「30分に1人の割合で被害者が出ていること」、「100円で1㎡が安全な土地に変わることを」大きな声で訴えて、募金を呼掛けました。

真冬の2月、雪が舞って凍えるほどの寒さでしたが、募金をして頂くたびに力が湧きました。ひとりひとりのお金地雷を無くしていく支援になるということと、少しでも関心を持ってもらえたことを実感できたからです。

2度目は、一目でイメージしやすいようにと、100円で撤去できる広さの実物大をみんなで作りました。

結果は大成功で、お花見に訪れた多くの通行人の注目を浴びて、前回より多くのひとびとに募金をして頂くことができました。ボランティアスタッフの人数が6名に増えたことも、いい結果を生んだ大きな理由だと思いません。みんなで協力できる街頭募金は、連帯感が生まれてすごく楽しいことがわかりました。

これからも、2ヶ月に一度の街頭募金を続けて地域に定着させ、地雷撤去支援のための資金集めと、ひとりでも多くの人に関心を持つきっかけになるように、ボランティアスタッフといっしょにがんばります。(春山)

●『テラ・ルネッサンス平和基金』報告

現在、街頭募金や皆様からお預かりした募金は、テラ・ルネッサンス平和基金として積み立てております。スタディツアーやスタッフの出張の際、現地でのパートナー団体に贈呈しています。

3月16日～24日までのカンボジアスタディツアーでは、下記の団体に贈呈しました。

1. HALO TRUST(\$2,500)

HALO TRUSTは地雷除去をカンボジア、アフガニスタンなどで実施している非営利団体です。カンボジアでは1㎡の地雷原を安全にするのに約¥100のコストがかかると言われていました。今回の贈呈した金額では、約3,020㎡もの土地の安全が確認された計算になります。

実際、私たちからの小口寄付は、地雷除去そのものよりも、地雷が埋設しているために生活が困窮している世帯への支援、もしくは地雷除去後の復興のための支援に使われることが多いそうです。

今回の支援では、地雷除去が完了した土地に住民のための井戸を掘るための資金として活用していただきます。

ちなみに井戸をひとつ建設することで、平均で10世帯、約100名が安全な飲み水を恒久的に手にいれることができます。以前は地雷が埋設されていることによって、水場まで移動ができずに、雨水を掘りに貯めて、使用していました。そのため、多くの人々、特に子どもたちが下痢を引き起こしていました。

2. カンボジアトラスト(\$1,000)

カンボジアトラストはカンボジアに3つの工場を持ち、地雷やポリオなどで障害を負った人々に無償で義肢装具を提供しています。また、プノンペンにある施設には義肢装具士を育成するための学校も併設され、カンボジアのみならずラオス、スリランカからも学生を受け入れていました。

3. JHP・学校をつくる会(\$600)

JHP・学校をつくる会はカンボジア国内で学校の建設、修理を行うと同時に、日本からの学生によるボランティアチームを編成。学生に学校の遊具を建設させ、日本学生の教育も行っています。

皆様からの資金の一部は、JHP・学校をつくる会が実施する「美術・音楽教育への支援事業」に提供されています。ポルポト時代に消された美術・音楽教育の復興に使われています。

4. CCH(渋谷修さん)(\$100)

渋谷さんは真言宗の僧侶で、ウナロム寺内に工場を構え、中古自転車を手こぎ三輪車に改造し、地雷で両足を無くした方に無償で提供されています。

5. 国際ボランティアを育てる会(\$20)

福岡県甘木市に本部を構える国際ボランティアを育てる会は、適正技術の普及活動をしています。カンボジアでは竜骨水草と呼ばれる現地の伝統技術の復活と普及に力を入れています。

※今後もテラ・ルネッサンスが行う支援事業へ
ご理解、ご支援お願い致します！

●HALO TRUST サイモン・コンウェイ氏(東南アジア担当)より

地雷は現在でもカンボジアの人々を苦しめています。その苦しみは地雷原に住むことを余儀なくされた貧しい人々に特に重くのしかかります。しかし望みがないわけではありません。活動の目標を的確に定めれば、大きな変化をもたらし、人々の命を救うこともできるはず。今すぐに実現するようものではありませんが、遠い将来にはきっと可能でしょう。

皆さまからのご支援のおかげで、地雷探知機がカンボジアの人々のもとに届きました。保護装置を取り付け、現地の人々が今後の作業で使えるよう訓練を受けています。また皆さまからのご寄付により専門機器がカンボジアに送られ、地雷が除去された場所には学校や井戸が建設されます。このように活動を通して、大きな貢献が可能になります。皆さまのご支援と共に今後も地雷の除去を続け、カンボジアの人々の生活をより良いものにしていきたいと思います。

THE
HALO
TRUST

●日本もクラスター爆弾保有(毎日)

不発弾が多く「第2の対人地雷」と批判されているクラスター爆弾を、航空自衛隊が87～02年度の16年間で総額約148億円分購入し、現在も保有していることが分かった。防衛庁は予算書などで購入を明示しておらず、配備中に国会で保有の是非が質疑されたことはなかった。同爆弾は米軍のイラク攻撃にも使われて国際的な問題になっており、国会への報告や情報公開のあり方が問われそうだ。

米企業が開発した「CBU—87/B」型を、技術提携した国内企業から毎年8億～10億円分購入。02年度で配備を完了した。保有数や配備状況は未公表だが、全米科学者連盟によると、同型の90年当時の単価は約1万4000ドル(約170万円)で、空自の保有数は数千個と推計される。空自の支援戦闘機と偵察機に搭載できる。

同爆弾の購入は、予算審議の際に国会議員に配る明細書や添付書類で、ミサイルなどととも「弾薬」として一括計上された。99年以降行われている全防衛装備品の契約状況の公表でも、随意契約のため入札公告などがなく、事前周知されていない。

同爆弾は湾岸戦争などで使われ、民間人約2000人が死亡したと推計されている。不発弾に触った子供が多く含まれ、90年代初めから赤十字国際委員会などが規制を求めている。非人道的兵器を規制する「特定通常兵器使用禁止・制限条約(CCW)」を締結した90カ国は先月、不発弾処理の検討を始め、年内にも具体案をまとめたとしている。

●クラスター爆弾で2次被害拡大(共同)

爆弾の中に200個以上の小爆弾を収納し、広範囲にばらまく集束爆弾は小爆弾の不発率が高く、戦後も民間人が被害に遭う可能性が高いため、人権団体などが使用禁止を求めている。米国に対する批判があらためて高まるのは確実だ。

ロイター通信は19日、バグダッドの病院にある集束爆弾の被害者病棟に入院するアリ・ムスタファ君(5つ)の様子を伝えた。アリ君は11日、兄弟と庭で遊んでいた際に集束爆弾が爆発、全身に傷を負い、失明の可能性があるという。

またAP通信によると、19日、イラク人の少女が拾った集束爆弾の不発弾をパトロール中の米兵に渡した際、突然爆発が起き、米兵4人と少女が負傷した。少女は手を負傷し、米兵の1人は片足を切断した。

●米政権、小型核の開発許可を要請(共同)

ブッシュ米政権が、1993年以来、禁じられている爆発力5キロトン以下の核兵器開発に乗り出すため、国防予算を計上する2004会計年度国防権限法案(国防予算案)に、小型核の研究・開発を禁じた「ファースト・スプラット条項」の廃止を盛り込むよう議会側に提案、開発費用の計上も要請していることが19日、分かった。議会筋が明らかにした。

同省は同条項が核兵器の性能向上を妨げていると言明している。条項廃止で小型核の兵器化に踏み切り、イラク戦争で多用した特殊貫通弾(バンカーバスター)への搭載も視野に入れているとみられる。

これに対して野党民主党は強く反対しており、同条項の廃止が実現するかどうかは不透明だ。

提案は「無法者国家」やテロ組織に対する「限定核戦争」の可能性を模索する動きが表面化したことを意味する。核兵器の小型化は通常兵器との境界線をあいまいにするほか、開発過程で凍結中の核実験が必要となる事態も予測される。

議会筋によると、国防総省は2月、04会計年度国防権限法案の原案を説明趣意書とともに上下両院の軍事委員会の主要メンバーに提出。(1)次世代の核科学者、技術者の養成(2)国際環境の変化に迅速に対応できる核戦力の保持一の観点から同条項の問題性を指摘。

さらに「精密性、貫通性の向上」や「副次的被害の抑制」などの探求を促した戦略文書「核体制の見直し」(02年)の趣旨に反するとして、条項廃止と「十分な予算」確保を求めた。

ブッシュ政権発足以来、核兵器の小型化を求める意見が台頭、下院共和党の政策グループは2月、同条項廃止を求める報告書をまとめていた。

●自衛隊の対人地雷廃棄完了(毎日)

◇政府とNGOの連携で

対人地雷禁止(オタワ)条約に基づき、日本の自衛隊が保有していた対人地雷約100万個の廃棄が、3年と約20億円を費やして完了した。先月、小泉純一郎首相も出席した滋賀県新旭町での最終爆破セレモニーを見た。しかし「これで日本は国際的な責任を果たした」と自己満足に終わってはならないと思う。

01年8月にカンボジア取材した。最も地雷の被害が深刻なパタンバンにある病院で、地雷で右足を失った14歳の少年に出会った。その記事「父さん 僕の足も地雷に…」は、大阪府内の小学3年生に配られる人権教育読本「にんげん」に収録され、私は小中学校など40校で地雷の問題を伝えてきた。その模様はホームページ「ネット希望授業」(<http://www.mainichi.co.jp/osaka/>)でも再現している。

イラクの大量破壊兵器や北朝鮮の核開発問題が注目を集める一方、なぜ今、対人地雷にこだわるのか。教室では、いつも次のような話をしている。

地雷には他の武器とは異なる三つの特徴がある。一つは、兵士と民間人の区別なく爆発する「無差別性」。もう一つは、いったん埋められると、50年も100年も、誰かが踏みかき取り除かれるまで効力が続く「半永久性」。そして、殺すより、大人の手足を吹き飛ばす程度にけがをさせることを狙った「残虐性」だ。

このためカンボジア、アフガニスタン、アンゴラなどの長く内戦が続いた国では、むしろ難民が古里に帰った後、被害が深刻化し、復興の大きな妨げとなっている。年間1万5000人以上の犠牲者の大半は民間人といわれ、30分に1人の割合で、地球上のどこかで今も被害者が出ている。

セレモニーに続いて「地雷をなくそう！全国こどもサミット」が開かれた。開会式で、愛知教育大付岡崎中3年の柴田知佐さん(15)は、小泉首相に、地雷の恐ろしさを伝える漫画を手渡した。小学5年の時、長野五輪の開会式で聖火の最終ランナーを務めたクリス・ムーンさんの姿を見て、「どうして、片手、片足なんだろう」と疑問を抱いた。「地雷の被害をなくすために、自分も何かしなければ」と描いたのが、この「ノーモア地雷」という漫画だった。柴田さんは「多くの国がオタワ条約に加盟するようお願いしてください。ネバー・ギブアップ」と首相にエールを送った。

日本に課せられた新たな責任は、締約国を一つでも増やす「条約の普遍化」への努力である。今年9月には、第5回締約国会議が、アジアで初めてバンコクで開かれ、日本はカンボジアとともに地雷除去等常設委員会の議長国を務める。

条約には現在、世界の3分の2にあたる131カ国が加盟しているが、米国、ロシア、中国といった軍事大国が署名していない。

また、近隣のアジア太平洋地域を見渡せば、韓国、北朝鮮、インド、パキスタンなどが未加盟で、41カ国のうち締約国は16カ国にとどまる。アジアは中東とともに、空白地帯なのだ。

NGO(非政府組織)レベルで韓国などと連携を深めてきた地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)事務局長の清水俊弘さんは「まずはアジア太平洋地域をマイン・フリー・ゾーン(地雷のない地域)にしたい」と話す。政府レベルでは、外務省に加え、防衛庁も安全保障上の観点から、アジアの未加盟国に働き掛けをしているというが、具体的な戦略は見えてこない。

地雷禁止国際キャンペーン(ICBL)調整委員を務める長(おさ)有紀枝さんは「全方位よりも優先順位をつけて、たとえば、過去に参加の動きをみせたモンゴルからなど、外務省と防衛庁、NGOがすり合わせをして、共通のターゲットに働き掛けることが必要だ」と提言する。同感だ。

「大国が参加しない条約は実効性がない」という逃げ道を与えないためにも、他の締約国と連携しながら、米露中への働き掛けを強めなければならない。途上国に対しては、地雷廃棄や除去のための資金面、技術面の不足が条約加盟に踏み切れない理由ならば、政府開発援助(ODA)と組み合わせ、批准を誘うことも有効だ。

国境を超えて、政府と市民ネットワークが手を携えれば、国際社会を動かすことができる。それを実証してみせたのが、オタワ・プロセスと呼ばれた同条約の成立過程だった。世界に6000万個以上といわれる埋設地雷の除去、被害者の支援。道は険しいが、悲観すべきでない。10年前、対人地雷禁止条約が発効し、日本の地雷がゼロになると、誰が予想しただろうか。未来は変えられる。



カンボジアへ送った支援金で購入した大型金属探知機を試す鬼丸代表（右端） 2002年11月、カンボジア・シエムリアップ

地雷廃絶訴え講演活動

京の大学生
NGO2年目 除去へ募金送る

京都市伏見区の大学生が、地雷除去活動を支援するNGO(非政府組織)をつくり、カンボジアなどに募金を贈る取り組みを続けている。活動開始から二年目に入り「一人でも多くの人に地雷問題への関心を高めてもらいたい」と、全国の中学校へ出向いて精力的に講演活動をしている。

「初めて目にした広大な地雷原は、黙々と撤去作業が進められるだけで、全く音のない死んだような土地だった」という。帰国後、自分に何ができるのかを考え、現地で見えてきたことをそのまま語り継ぐために、ボランティア活動で知り合った友人二人とNGO「テラルネッサンス」を立ち上げた。

立命館大四年の鬼丸昌也さん(三三) 伏見区深草池ノ内町 地雷除去活動への支援は、二〇〇一年三月にカンボジアを旅

したことがきっかけになった。

「日本では、地雷問題はよその国のことという風潮がある。人の心にある『無関心』という地雷を取り除く活動ができれば」と鬼丸さん。「今後はNPO法人(特定非営利活動法人)の認証も取って、地雷問題のほか、少年の徴兵問題や小銃な

など月五、六回、講演をするほか、カンボジアやスリランカへ赴き、日本各地から寄せられる募金を現地の地雷除去団体に贈っている。

現在、全国の中学校や行政が主催する学習会

など月五、六回、講演をするほか、カンボジアやスリランカへ赴き、日本各地から寄せられる募金を現地の地雷除去団体に贈っている。

「日本では、地雷問題はよその国のことという風潮がある。人の心にある『無関心』という地雷を取り除く活動ができれば」と鬼丸さん。「今後はNPO法人(特定非営利活動法人)の認証も取って、地雷問題のほか、少年の徴兵問題や小銃な

現在、全国の中学校や行政が主催する学習会

など月五、六回、講演をするほか、カンボジアやスリランカへ赴き、日本各地から寄せられる募金を現地の地雷除去団体に贈っている。

など月五、六回、講演をするほか、カンボジアやスリランカへ赴き、日本各地から寄せられる募金を現地の地雷除去団体に贈っている。

現在、全国の中学校や行政が主催する学習会

など月五、六回、講演をするほか、カンボジアやスリランカへ赴き、日本各地から寄せられる募金を現地の地雷除去団体に贈っている。

など月五、六回、講演をするほか、カンボジアやスリランカへ赴き、日本各地から寄せられる募金を現地の地雷除去団体に贈っている。

現在、全国の中学校や行政が主催する学習会

など月五、六回、講演をするほか、カンボジアやスリランカへ赴き、日本各地から寄せられる募金を現地の地雷除去団体に贈っている。

など月五、六回、講演をするほか、カンボジアやスリランカへ赴き、日本各地から寄せられる募金を現地の地雷除去団体に贈っている。

現在、全国の中学校や行政が主催する学習会

など月五、六回、講演をするほか、カンボジアやスリランカへ赴き、日本各地から寄せられる募金を現地の地雷除去団体に贈っている。

ど小型武器の撤廃活動にも取り組みたい」と意欲を見せている。

地雷除去募金やボランティア活動の申し込み、問い合わせはテラルネッサンス事務局 ☎075(645)1802。

●会員更新のお願い

今回、2002年4月～6月までに入会下さった方へ、更新をお願いしています。皆様の会費は家賃、光熱費などの事務局運営に充てられており、本会の基本的な財源となっております。

2月の収支報告を下記に掲載しましたが、ご覧の通り、ある程度支出を抑えても最低限の固定費が必要です。また、国際チームが始動した現在、海外との連絡、海外出張に経費がかかることが予想されます。

例)2003年2月 収支報告

【収入】		
ファンクラブ会費	105,000 (21口)	30.2%
新規会員	24,000 (6人)	6.9%
個人会員更新	18,000 (6人)	5.2%
新規団体会員	51,000 (1団体)	14.6%
団体会員更新	50,000 (1団体)	14.4%
物販収益	23,400	6.7%
自由寄付	48,500	13.9%
貸付返済	28,266	8.1%
合計	348,166	100%
【支出】		
家賃(3月分)	70,000	21.4%
光熱費	27,621	8.4%
通信費	13,391	4.1%
交通費	77,490	23.6%
郵送費・運送費	51,850	15.8%
印刷費	6,739	2.1%
消耗品・備品費	24,457	7.5%
※内、¥13500 はカンボジアの物販購入費		
施設使用費	18,995	5.8%
研修費	17,000	5.2%
図書研究費	4,000	1.2%
記録費	2,640	0.8%
事務局食費	11,563	3.5%
各種手数料	1,937	0.6%
合計	327,683	100%
		収支 20,483円

今後も事務局一同、効果的な事務局運営に努めて参ります。どうぞ、テラ・ルネッサンス会員として、本会をご支援下さいます様、お願い申し上げます。

また、会費お振込の際は、便利な自動振替をご利用下さい。一度、お手続き頂くと、毎年皆様の口座(銀行、郵便局などほとんどの金融機関)から自動的に引き落としされ、振込に行く手間が省けます。

同封の自動振込申し込み用紙に、必要事項をご記入、捺印の上、テラ・ルネッサンス事務局までご返送下さい。

●FAX(メール)通信、始めます!

前号でご案内いたしました、郵送費の削減と、テラ・ルネッサンスの活動状況、イベント案内、情勢解説などをタイムリーにお伝えするために、FAX かメールにて「テラルネニュース」をお送りいたします。(基本的にはA4サイズ1枚から2枚)

FAX かメールでの送信になりますので、お手数ですが、テラ・ルネッサンス事務局まで、FAX 受信、メール受信のどちらをご希望かお知らせ下さい。

また、郵送をご希望の方は、年4回の結晶母発送の際に同封させて頂きます。

5月中旬の第1号発行をお楽しみ下さい!

「テラルネニュース」受信希望のお知らせ先

TEL&FAX 075-645-1802

Mail tokotowa@k2.dion.ne.jp

●深草池ノ内(ふかくさいけのうち)日記

事務局の前には児童公園があり、暖かくなった今、屋間にはたくさん子どもたちが遊んでいます。「キャッ! キャッ!」と楽しそうな声が聞こえると、外で思いっきり遊びたい! ものすごい誘惑に負けてしまいそうです…。でも、締切が迫っていて、事務局に缶詰め状態です。早く結晶母を皆さんの下にお届けして、健康的な生活に戻りたい(いつも不健康だという噂も?)と思います。(0)

●今後の予定(2003.4~2003.7)

- 4月25日(金)コスモライフ研究会(埼玉)
 4月26日(土)ゼツタイわかるシリーズ 2003(東京)
 4月27日(日)Peace Presentation(東京)
 問合せ先:NPO 法人 PBLs info@pbls.or.jp
 5月3日(土)街頭募金(京都)
 5月4日(日)テラルネ★カフェ(京都)
 5月8日(木)月例ミーティング(京都)
 5月12日(木)高雄中学校カンボジア報告会(京都)
 5月12日(木)京都青年会議所不動産クラブ(京都)
 5月18日(日)ヒロシマ宗教協力平和センター(広島)
 問合せ先:H CPR 082-227-1337
 5月22日(木)21世紀PEACE講座(京都)
 5月23日(金)賀茂広域危険物安全協会(広島)

- 5月25日(日)テラルネ★カフェ(京都)
 6月1日(日)街頭募金(京都)
 6月6日(金)京都洛陽ライオンズクラブ(京都)
 6月12日(木)亀岡青年会議所(京都)
 6月12日(木)月例ミーティング(京都)
 6月23日(金)テラ・ルネッサンス鎌倉(鎌倉)
 問合せ先:大蔵 0468-49-7900
 6月26日(木)21世紀PEACE講座(京都)
 7月13日(日)オープンセサミ(東京)
 問合せ先:加瀬 03-5796-9334
 ※太字はテラ・ルネッサンス主催イベントです。
 問い合わせは全て事務局(075-645-1802)まで
 ※下線は代表講演です。一般公開のイベントは各問合せ先を明記しています。

一緒にテラ・ルネッサンスを造っていきませんか

テラ・ルネッサンスは世界平和の実現を目指す市民団体です。多くの市民が参加することで、世界を変える力が大きく生み出されます。テラ・ルネッサンスの趣旨に賛同される方は、ぜひメンバー登録をお願いします。皆様の想像力と行動が、確実に世界を変えていきます。

【会員特典】

- ・活動報告、平和問題リポート掲載の会報誌(季刊)、テラ・ルネニュース(毎月)を贈呈
- ・テラ・ルネッサンス主催のイベントへの優待 など

【会員種別】 入会金 1,000円(登録手数料、入会時のみ)

会員	個人会員 3,000円/年
	ジュニア会員 1,000円/年(18歳以下)
サポーター	サポーター会員 30,000円
	団体会員 50,000円/年(団体)
	ファンクラブ会員 一口5,000円/月

【例】個人会員 入会時は入会金+年会費で4,000円 2年目からは会費(3,000円)のみ
 郵便振替 00950-7-133760 加入者名 テラ・ルネッサンス基金

1,000円 = 10㎡

地雷除去支援など、テラ・ルネッサンスの実施する支援事業に継続的なご支援をよろしくお願い致します。
 たとえば、1,000円で10㎡のカンボジアでの地雷除去作業ができます。

ご寄付は下記の郵便振替口座に送金下さい。

郵便振替 00950-7-133760 加入者名 テラ・ルネッサンス基金

※通信欄に「地雷除去支援」など、使用用途を記入下さい